

さつま町における火薬庫の適地調査について

九州防衛局
令和6年2月

1. 背景

**我が国は、戦後、最も厳しく
複雑な安全保障環境に直面**



令和4年12月 安保3文書を策定、防衛力の抜本的強化へ

1 スタンド・オフ防衛能力



2 統合防空ミサイル防衛能力



3 無人アセット防衛能力



4 領域横断作戦能力



5 指揮統制・情報関連機能



6 機動展開能力・国民保護



7

持続性・強靱性

必要十分な弾薬・誘導弾・燃料を早期に整備、
また、装備品の部品取得や修理、施設の強靱化
に係る経費を確保



**✓令和9年度までに、約70棟程度を措置し、
おおむね10年後までにはさらに約60棟程度の整備
を目標**



『さつま町』を火薬庫の整備候補地の一つとして検討

令和6年度予算案に適地調査の経費、約10億円を計上

さつま町の誘致活動

- ✓H30.5 さつま町商工会が町議会に対し、**防衛施設**の誘致に係る請願書を提出
- ✓H30.6 さつま町議会が、上記請願書を採択
- ✓H30.7 さつま町議会議長がさつま町長に対し、「町の活性化につながる誘致活動を展開すべき」旨の申し入れ
- ✓H30.8 **さつま町防衛施設誘致推進協議会が発足**
(官民一体の誘致体制)
- ✓H31.2 さつま町長による、防衛施設等誘致の請願 → 九州防衛局
- ✓H31.2 さつま町防衛施設誘致推進協議会等による、**防衛施設等誘致の請願** → 防衛本省以降、継続的に誘致活動を実施



防衛省において、

- ✓部隊運用上の利便性が高いこと
 - ✓幹線道路等へのアクセスが良いこと
- などを総合的に勘案

2. 自衛隊の火薬庫について

自衛隊の防衛施設として、さつま町に火薬庫を整備したい考え

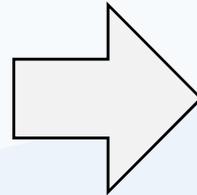
○自衛隊の火薬庫は全国に約1,400棟

・安全が最優先

火薬類取締法及び関係法令に基づき、ハード（施設）面及びソフト（教育）面で厳重な安全措置※

・火薬庫は弾薬の保管場所

火薬庫で弾薬を発射することは無い。
基本的に火薬と信管は別々に保管されており、暴発の恐れはない。



これまで、

爆発事故は **0** 件

※安全措置の具体例

- ✓火薬類を取り扱う隊員への安全管理に関する必要な教育
- ✓必要な警備体制の確保
- ✓関係者以外の立入や引火性物質の持ち込みの禁止
- ✓火災が発生しにくい設置・運用

○整備予定の施設

・敷地内に火薬庫やその施設を管理するための施設などを整備

・規模は未定

※部隊の規模についても、適地調査を行う段階であり、現時点で決まっていない（火薬庫のある防衛施設の一例として沼田分屯地の定員は約60名）



管理庁舎施設（イメージ）



隊舎（イメージ）



地上式火薬庫（イメージ）



地中式火薬庫（イメージ）



新たに火薬庫を整備する際は、これまでと同様に**安全の確保が大前提**

3. 適地調査を行う場所について

『中岳』で適地調査を実施することとした理由

【ポイント】

- さつま町全域を検討した上で、防衛省として遠望等により現地を確認
- 火薬庫の整備に必要な地積を確保できる可能性があること
- 法令等に基づいた必要な保安距離を確保できる可能性があること
- 北薩横断道路のインターから近く、アクセスが良好
- 部隊運用上の利便性が高いこと

**※防衛省において総合的に判断した結果、
さつま町南部の『中岳』での適地調査を実施**

4. 適地調査について

✓適地調査では、以下の確認を実施します。

- 現地の地形、地盤強度を踏まえて、運用上必要な火薬庫等の施設を整備できるのかを確認
- 火薬庫整備に必要となる保安距離を確保できるのかを確認
- 環境現況調査を実施して、その結果を踏まえて火薬庫整備における環境保全策について検討

① 測量等調査

中岳周辺の地形等を把握

② 土質調査

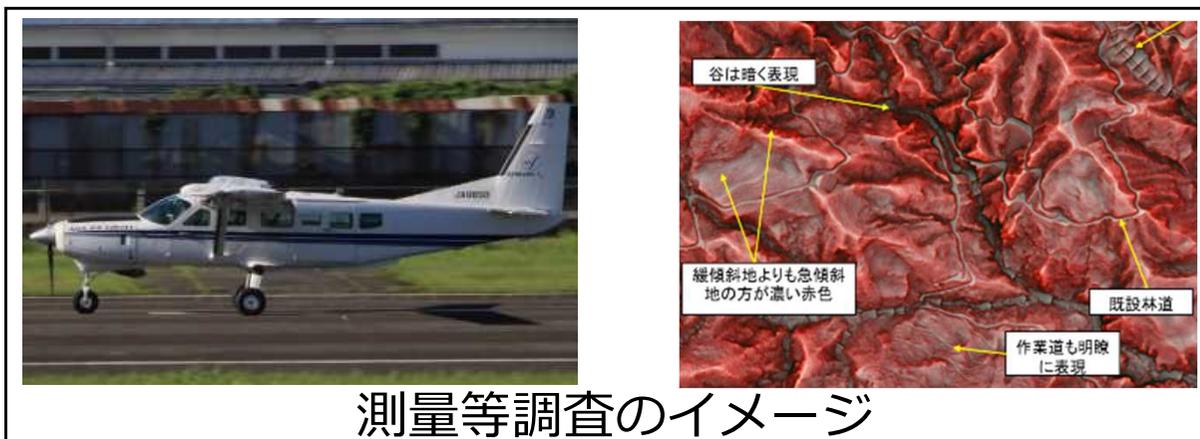
地盤の強さ等を確認

③ 環境現況調査

動植物の生息状況や大気質を調査

④ 配置検討

火薬類取締法等に基づいた保安距離を十分に確保した配置を検討



測量等調査のイメージ



土質調査のイメージ

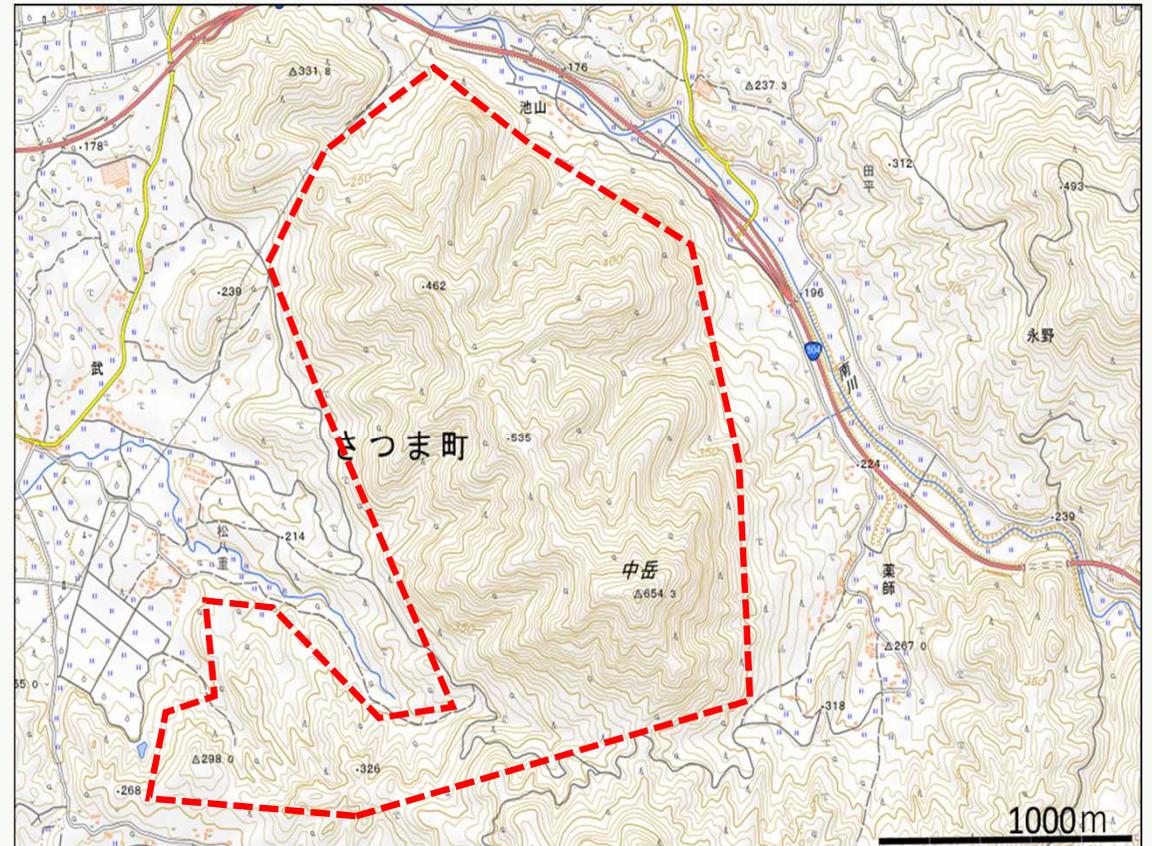


環境調査のイメージ

5. 適地調査について

調査の範囲について

- 中岳に火薬庫等が整備可能か適地調査を実施いたします。
- 適地調査の実施にあたっては、必要な手続を行ってから適切に実施いたします。



適地を検討している範囲のイメージ

6. 今後のスケジュール

- 令和6年度予算が成立後、準備が整い次第、適地調査を実施したい考え。
- 適地調査の結果、中岳における火薬庫の整備が可能であれば、設計・工事を実施したい考え。
- さつま町とご相談しながら、地元の皆様には様々な形で説明、情報提供させていただきたいと考えておりますので、引き続き、ご理解・ご協力をお願いいたします。

